

英語の得点・偏差値を短期間で確実に急上昇させる方法とは

—開倫塾で一度学習した教材や模試、過去問の徹底的な復習が一番の近道—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：いくらやっても英語の得点や偏差値が一向に上がりません。なぜでしょうか。また、どうしたらよいでしょうか。

A：(林明夫：以下省略)

- (1) 学校や開倫塾の英語の授業に真面目に出席していても、得点・偏差値アップになかなか結びつかない理由は、学んだことが身に着いていないからです。そこで今回は、どうしたら学んだことが身に着くかをじっくりとお伝えいたしますので、是非参考にして、今日からこの通りにやってみてください。大学入試や高校入試の受験生も、また、英検をこの秋・冬に受験する人も必ず短期間で得点・偏差値アップに結びつきます。
- (2) 学んだことを身に着ける上で最も大切なのは「復習」です。開倫塾の授業でその日に学習したテキストや問題集、様々なテストの過去問の英語の部分を、まずはゆっくりと声を出して読み直してください。解答・解説も同様に音読しましょう。
- (3) 次は、声を出して読んでいて、これは大切な語句・表現だと思った英語と、自分にはよく身に着いていない(つまり、よく読めない・正確に書けない)語句・表現だと思われた英語に下線を引いてください。
- (4) 1つの問題や、1つのパラグラフ(1つの章、文章のかたまり)の英語をこのように「音読」し、下線を引いたあとは、次の作業をていねいに行ってください。
 - ① 「ノート」を1冊用意してください。そして、その「ノートの左ページ」には下線を引いた英語を書き写してください。「ノートの右ページ」には、その日本語の意味を書いてください。
 - ② 英語の読み方がわからなければ、「英和辞典」を用いて調べ、できれば「発音記号」を書き写す。発音記号がよく読めなければ、辞書に出ている「カタカナ」の読み方を書き写してください。どうしてもわからなければ、友人や先生にお聞きしましょう。
 - ③ 日本語の意味がわからなければ、「英和辞典」を用いて調べてください。
 - ④ 「ノートを見開きで使うのはもったいない」と考える人は、1ページの真ん中にたてに線を引き、左側に英語を書き写し、右側にその日本語の意味を書いてください。
 - ⑤ もちろん、ノートの左上には日付けや教材のページ、テストの名前、問題番号などを書いておくことをお勧めします。
 - ⑥ とにかく、開倫塾でその日の英語の学習が終わったら、左側に英語、右側にその日本語の意味

を書いたノートをつくることです。

⑦学校の授業で学習したあと、自分自身で選んだ教材を学んだあと、通信添削の問題が終わったあとにも、このノートづくりの作業をていねいに行ってください。

⑧問題の本文だけでなく、設問や選択肢(せんたくし)のすべての英語、解答・解説の英語も、このノートづくりの作業をていねいに行ってください。

Q : わかりました。このノートをつくっただけで成績は上がるのですか。

A : はい、上がります。ただし、ほんの少しだけです。大幅に上げるには、このノートのすべてをスミからスミまで正確に身に着けなければなりません。その学習の順序は次の通りです。

(1) まずは、ノートの左側の英語がスラスラとよく読めるようになるまで、1 ページずつ「音読練習」をすること。

(2) 次に、ノートの左側の英語の意味を、すべて日本語で言えるまでにすること。ノートの右側の日本語の意味を小さな紙などで隠しながら、左側の英語を一行ずつ音読し、その日本語の意味が言えるようになれば OK です。この練習を何回も何回も繰り返して、英語を一行ずつ音読しながら日本語の意味もスラスラと言えるまでにすること。

(3) その次は、この逆です。日本語を見て英語がスラスラと言えるかどうかを、一行ずつ自分でチェック。この練習を 1 ページずつ何回も繰り返し、日本語を見て英語がスラスラと言えるまでにすること。

(4) 最後は、ノートの右側の日本語を見て英語が正確に書けるようになるまで一行ずつ「書き取り練習」をすること。この「書き取り練習」こそが英語の得点力・偏差値の大幅向上の「提要(ていよう)」、「肝(きも)」、最重要ポイントです。

(5) この開倫塾での英語の学習の復習作業を 1 日に 1 時間～2 時間するだけで、得点・偏差値は大幅に向上します。

Q : エーッ、本当ですか。やってみようかな。

A : (1) まずは、開倫塾で今日学んだ内容について「左側英語」、「右側日本語」の「ノートづくり」を行い、英語をスラスラと読めるようにした上で、英語を見て日本語、日本語を見て英語がパッと出るまでにし、最後は日本語を見て英語が書けるまでにすること。この練習を開倫塾の授業終了後に「自己学習」として行ってみてください。

(2) 開倫塾の夏期講習会やお盆特訓のテキスト、今までに学習したことのある英検の過去問やテキストももう一度 1 ページずつ、または、1 問ずつ「音読練習」をしてスラスラとよく読めるようにしたあと、「左側英語」、「右側日本語」の「ノートづくり」をしてスミからスミまで正確に覚えることを実行してください。

(3)学校の教科書や自分で選んだ教材、通信添削の問題や解説文も、同じようにしてすべて身につけてくださいね。

Q：過去問も同じようにするのですか。

A：(1)もちろんです。大学入試・高校入試・英検の過去問は自分で一度解いたあとが大事です。皆様はあまり御存知ないかもしれませんが、大学入試はもちろんのこと、高校入試をはじめとするすべての入学試験や英検・漢検・数学検定などの検定試験、様々な国家試験などの問題を作成している「作問者」と呼ばれる先生は、「自らの命」を削りながら受験生のためによい問題をつくろうと、日夜自分の大切な時間をお使いになっておられます。日本の「作問者」の先生ほど受験生のことをお考えになっておられる方はいません。

(2)ですから、大学入試・高校入試・英検の過去問は、学校や開倫塾の教科書・テキストと全く同じように大切な「英語の学習の教材」と考え、一度練習した問題はノートを用いて必ずシミからシミまでやり直すことをお勧めします。

Q：リスニングはどうしたらよいのですか。

A：(1)まずは、入試も英検も過去問のCDを何十回、何百回も繰り返して聞き続け、スピードに慣れること。慣れてきたらシャドウイング(何も見ないで、ついて言うこと)をやってみてください。

(2)次は、リスニングのテキストを手元に置き、スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」をすること。あとは同じです。

Q：問題文の英文だけやればよいのですか。

A：(1)違います。リスニングも含め、設問の問題文と選択肢に出ている「すべての英語」についてスラスラとよく読めるようにしたあと、ノートをつくってシミからシミまで一語残らず身につけることです。

(2)学校の教科書も同じ。自分一人で読んでいる英語の新聞や英語の雑誌、英語のレポート・論文、英語の本も全く同じです。

(3)これは、一生役に立つ英語の学習の基本中の基本です。

(4)英語以外の語学を身につけるときのにも役に立ちます。

— 2014年9月1日 —
(宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授)